



■□■ menu ■□■

【hot issue】

第22回GDN-Japan ネットワーク会合開催

【news etc.】

- ▼2011年国際開発賞コンペティションへの募集開始
- ▼GDN RNPヘッド会合開催のお知らせ
- ▼2010年リリースのGDN Working Paper紹介



東北地方太平洋沖地震の影響により延期されていた第22回GDN-Japan ネットワーク

会合が開催され、今年1月に行われた年次会合や次回の年次会合について、参加したGDN-Japanネットワークメンバーの方々の中で活発な議論が行われました。



【hot issue】 第22回GDN-Japan ネットワーク会合開催

5月27日、東京・市ヶ谷にあるJICA研究所にて、第22回GDN-Japan ネットワーク会合が開かれました。この会合では、今年1月、コロンビア・ボゴタで行われた第12回GDN年次会合の結果報告（詳細は下記）やGDN-Japanと東アジア開発ネットワーク（EADN: East Asian Development Network）と合同で行ったパラレルセッションについての報告、GDN理事会報告などが行われました。



～第12回GDNボゴタ年次会合での議論の概要～

各議論の概要

(1) 2010年1月に前回のGDN conferenceが行われ、グローバルな経済のパワーバランスの変化と開発問題の新展開が議論されたが、その直後にギリシアに端を発したユーロ圏の危機が発生した。今回の会議は、ユーロ危機さらには2008年のリーマンショック以降の状況を踏まえ、グローバルな開発と貧困削減に資する金融制度、政策を中心的な問題意識にしたものであった。特にマクロ面では、伝統的な開発金融 (development finance) の役割、金融規制のあり方 (prudential regulation)、ミクロ面では、貧困層にもアクセスできる金融サービス (financial inclusion)、マイクロファイナンスの有効性などが議論の中心となった。

(2) 開発金融の役割に関しては、先進国の貯蓄を資金不足の途上国の開発のためにファイナンスするという伝統的仕組み自体が現在すでに有効性を失ってきており、資本市場を通じて新興国の資金をどのようにチャンネルしていくかに議論の重点

を移すべきである(F. Bourguignon 前世銀チーフエコノミスト、現パリ経済学院)、援助は地政学的バランスの一部であり冷戦期に形成された「援助のレジーム」の前提が大きく変わりつつあり、国際関係も変容しつつある(H. Milner プリンストン大学教授)などの議論が行われた。GDN-Japan分科会も基本的にこのテーマに関連したトピックを扱い、新興ドナーのリアリティーのカンボジアの事例に即した分析(佐藤仁 東大教授)、ネットフローベースでの援助額の議論に見落とされている問題と有償援助のメカニズム再考(林 JICA GDN アドバイザー)、フィリピンにおける労働者送金の実態と開発資金としての意味(G. Sugyarto ADBエコノミスト)の3報告をベースに議論を展開した。

(3) 金融危機の関連した規制や政策に関しては、危機や大きな変動(Volatility)が開発途上国に大きな打撃を与えることから、予防措置としてのプルデンシャル規制に関心が集まり、安定化措置(countercyclical measures)、貸出規制、課税などのマクロ・監督規制措置の重要性(E. Nier IMFエコノミスト)、自己資本規制の妥当性(A. Dermirguc-kunt、世銀上級エコノミスト)などの議論が行われた。

(4) 貧困層にもアクセスできる金融サービス(financial inclusion)に関しては、貧困層が金融サービスを利用できないことが貧困の大きな要因になっていることについて、おおむねコンセンサスが得られた上で、既存の銀行システムの枠組みではこれに対応できないとの問題意識から、コミュニティーバンクの役割を重視する問題提起(I. Hasan)や キャッシュ・トランスファープログラムによって銀行の事務的な負担を軽減する提案(F. Corecellli, パリ経済学院)が出され活発な議論が行われた。コロンビアの元蔵相のG. Perry氏は実証的研究から金融サービスへのアクセス向上は経済成長を促進させるものの、金融部門の急速な市場開放や国際的統合は必ずしも金融サービスのアクセス向上や資金量・市場規模の拡大にはつながらず、漸進的なアプローチが必要であることを主張し、注目を浴びた。このほかにも、プレナリーやパラレルセッション等で貧困層の金融サービスへのアクセスを向上させる方法、貧困層が銀行口座を持つことの重要性と促進策などについて活発な議論が行われた。

(5) マイクロファイナンスはこれまで貧困層が金融サービスにアクセスできる画期的な方法として喧伝されてきたが、今回のGDNでは、これに対する異論や留保が多く提起された。E. Young教授(ミシガン大学)によれば、マイクロファイナンスが概ね生産的投資を促すという通説的な見方に対して、すでにビジネスに従事している借り手とそうでない借り手との間には大きな行動の違いがあり、ビジネスに従事している借り手ほど、耐久財を購入しまた全体として節約的であるとする。V. Murinde教授(バーミンガム大学)は、全体としてマイクロファイナンスは貧困層に裨益するとしつつ、借り手が大きな不確実性に直面していることを問題とする。また、同教授はマイクロファイナンスの規制政策も問題を含んでいるとする。インドではマ

マイクロファイナンスが普及する一方で、借金に喘ぐ農民が増加し、自殺者の急増も報告されている。これに対し、例えばアンドラプラデシュ州政府は2010年10月に返済猶予令（モラトリアム）を発出したが、これがマイクロファイナンス機関の業務縮小、貸出の急減を招き、貧困層が金融サービスを利用できない（あるいはより条件の不利な高利貸しに依存する）状況を招いている。このような議論が示すように、マイクロファイナンスは一時期の礼賛論の段階から、現在はスキームやメカニズム全体の反省期に入っているといえる。

今回の議論の総括と評価

(1) 今回のGDNでは開発金融 (development finance) がテーマとなったが、議論は若干隔靴搔痒の感をまめかれない。それは、ひとつには、今後資金の出し手になっていきものと予想される新興市場国、特に中国からの意見や問題提起を聞くことがほとんどなく、伝統的ドナーが「変化する状況に戸惑っている」状況で議論が終始してしまったことにある（前年のプラハも基本的に同じ状況）。中国の関係者が自由に参加し、意見をいうことができる場を作るのは難しいと思われるが、それができない限り、有効な政策指向型の議論はできないと思われる。同じようなことはインドについても言えることであり、インド人あるいはインド系人の参加の多さに比して、インド政府の政策や方向性についての具体的な議論は見られなかった。このあたりが、上記Milner教授のいうように、国際関係が大きく変わりつつある状況下での難しさであると思われる。GDNは、グローバリズムを標榜しながら、冷戦期以前の国民国家中心の枠組みをまだ引きずっている。真にグローバルなフォーラムへと成長していくことが今後の課題である。また、安定的な国際的な金融システムの構築 (financial architecture) は1999年にGDNが創設された際に大きな議題となった「古典的」なテーマではあるが、今回もさしたる成果はなく終わったのは残念である。これはこの問題の難しさを示すものといえよう。

(2) 一方で、ミクロ面のマイクロファイナンスも含めた「貧困層にもアクセスできる金融サービス (financial inclusion)」に関しては大きな収穫があったと考えられる。特にマイクロファイナンスへの初期の万能論の反省、貧困層向けの金融サービスの多様性など、ネットワークを生かして多くの知見が結合されるGDNの利点が発揮され、知識や情報が共有されることができたと考えられる。

今後フォローすべき点

(1) Financial Inclusion は現在、開発の最重要キーワードなりつつあり、口座の活用、送金、融資、保険などの総合的な貧困層向け情報サービスの展開が今後の開

発の課題になっていくものと考えられる。

(2)また、ODAの役割については、今後、変化する国際関係の中で議論が展開されていくものと思われるが、 Grant・エレメントの概念がすでに時代遅れになっていると指摘されて久しく、「援助のレジームチェンジ」、「スキームの根本的見直し」の議論への発展していく可能性がある。日本のODAの特徴は有償援助の比率の大きさであるが、有償援助の意義、必要性、課題等については十分に研究や議論がなされているとはいいがたく、今後の喫緊の課題である。

【news etc.】

▼2011年国際開発賞コンペティションへの募集開始

2000年の第2回東京会合以降の会合時に、コンペティションに応募された開発プロジェクトの中から斬新でインパクトのあるものに対して、国際開発賞が贈られています。先頃、次回の年次会合（2012年夏開催予定）で表彰される国際開発賞コンペティションの概要が発表され、募集が開始されました。

国際開発賞概要：http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=midp_feature
応募詳細：http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=2011_awards

▼GDN RNPヘッド会合開催のお知らせ

GDN地域ネットワークの代表が集まり、次回の年次会合の概要などを議論するRNPヘッド会合が6月27日、クロアチア・ドブロブニクで開かれる予定です。次回会合の開催時期や場所、全体テーマとして予定されている「都市問題」などについて議論される予定です。会合の結果は、改めてお知らせいたします。

▼2010年リリースのGDN Working Paper紹介

2010年にリリースされたGDN Working Paper、『Impact evaluation of a young medical volunteers project for Vietnam rural mountain』を含む4つの研究成果を紹介します。
http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=publications_listing&type_id=1



▽次回は2011年8月に配信予定です。

※今号の配信を3月下旬に予定していましたが、東北地方太平洋沖地震の影響により、配信が送れたことを御詫び申し上げます。

▽ご意見、ご感想などをお聞かせください。

dritrn-gdn-japan@jica.go.jp

▽お問い合わせ、配信先の変更・解除はこちらまでお願いいたします。

dritrn-gdn-japan@jica.go.jp

★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆★★☆☆☆☆

発行 : GDN—Japan事務局 (JICA研究所 企画課内)
制作 : JICA研究所 企画課 編集・発信ユニット
〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5 JICA研究所内
<http://www.jica.go.jp/gdn/japanese/index.html>